



立山町立立山北部小学校

学校だより

令和6年1月

— 第10号 —

未来に向かって

岩田 理恵子

令和6年は大地震、航空機事故…と波乱の幕開けとなりました。当たり前にある日常のありがたさや備えの大切さを再確認するとともに、被災地の様子に胸を痛める状況がまだ続いています。新川でも被害に遭われた方がいらっしゃるとのこと、心よりお見舞い申し上げます。復興への長い道のりに思いを寄せながら、今、自分にできることでその助けになればと願う毎日です。

今年は辰年。干支は「甲辰（きのえたつ）」で、これまで努力してきたことが芽吹いて大きな結果につながる年、まだ努力が足りない場合は結果にはつながらないがその芽が水面下でしっかりしたものにつつまれ、変化・変革の年と言われています。始業式では、冬休み中に立てた一年の誓いを心にもち、互いに励まし合って精一杯努力してほしいこと、一つ上の学年になるために、まとめと準備をしっかりしてほしいことを話しました。

北部っ子は、3学期に入ってから、どの学年もとても大人っぽい顔つきで、真剣にそして意欲的に学習に取り組んでいます。おそらく、それぞれのご家庭で、学ぶことの意義や学習できる環境があることへの感謝、そして何よりも命の大切さについて、じっくりとお話をさせていただいて、それが子供たちに響いているのだと思います。ありがとうございます。大人も子供も関係なく「まあいい心」でお互いを思いやり、「ありがとう」「ごめんなさい」がたくさん聞かれる温かい学校を、立山北部小学校に集う全員でつくっていききたいと思います。

私たち教職員も、今できることを考え挑戦し、未来に向けて着実に準備をしていきます。子供たちがよりよく成長していけるよう、全身全霊で取り組んでいきたいと思っておりますので、今年も変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



立山北部小学校教育後援会より寄贈

ありがとうございました

これからの寒い日に備えて、ブルーヒーター2台を寄贈していただきました。これで蓄熱暖房機の調子の悪い日や寒波がきて一段と寒い日も安心です。子供たちに紹介し、大切に使用していきます。本当にありがとうございました。



地震の恐ろしさを実感 ー防災を真剣に考えた元旦ー

富田 照子（防災教育担当）

令和6年能登半島地震…これまでの「富山県は災害が少ない」という言葉に安心していただけない災害が起きてしまいました。

以前は、県外に住む友人と「富山県は災害が少なくて安心だ。」といつも話していました。台風の時期になれば「立山連峰が守ってくれるから、そんなに心配せんでいいよね。」という予想が的中ということが何回もありました。だから、富山県はいいところだとずっと思っていました。それは今も変わりません。

しかし、近年の自然災害は回数も規模も違ってきています。地球温暖化の影響も大きいのだと思いますが、まさか、隣の石川県でこんなに大きな地震が起こり、ここ立山町でも震度5強の地震を体験するとは思っていませんでした。私は初詣帰りで、道路を歩いていたのですが、停車中の車が左右に小刻みに揺れているのを見て本当に恐ろしいと思い、電柱が倒れてくるのではないかと周りを見回しました。この体験から、改めて、防災教育は大切だと思いました。小学校では、地震・火災・不審者等、一年の間に様々な場面を想定した避難訓練を実施しています。自分の教室での授業中が基本の訓練ですが、特別教室の授業中であつたら、ばらばらに過ごす休み時間であつたら、その際どこを通つたらより安全なのか…訓練とはいえ、子供たちはその都度状況を把握し、自分で判断し、行動しなければなりません。それは教職員も同じです。訓練をすることで、もしもの時に、落ち着いて行動できるようになります。

今回の地震で、家庭での備えが一気に充実したということがあると思います。私自身、反省することばかりでした。今も苦しんでおられる被災者の方々を思いながら、学校で学んだことを実践力に変える子供たちを育てていきたいと思います。保護者の皆様には、2月3日の引き渡し訓練の際に、ご協力をよろしくお願いいたします。

【書初大会】

1月9日（火）の2時間目は校内書き初め大会でした。今年は、硬筆の1、2年生は教室で、毛筆の3～6年生は体育館で一斉に行いました。

これまでに練習した成果を発揮しようと、皆、集中して取り組んでいました。気持ちのこもった素敵な作品に仕上がりと、どの子供も満足そうでした。



【大谷選手からのグローブ】

アメリカ大リーグの大谷翔平選手から贈られたグローブが本校にも届き、お披露目されました。

子供たちからは、「サイン入りで格好いいな。」「柔らかくて使いやすそうだな。」「早くキャッチボールで使ってみたい。」等という声が聞かれました。2月3日以降の使い方について、スポーツ委員会を中心に決めていきます。

大谷選手、ありがとうございました。

